

【飲食店に飲酒運転で来店した客を通報し検挙につながった事例】

私は、ある飲食店で働いております。

ある日の夜、店の駐車場に1台の車が入ってきました。その車のヘッドライトが店にいた私の方に向かってくるので、店に突っ込んでくるのではないかと危険を感じながら見ていると、車は、店の出入り口横の駐車枠からはみ出すような形で斜めに止まりました。

どんな人が運転しているのだろうと注意して見ていたところ、運転席から中年男性が降りてきました。その中年男性は、出入り口のドアにぶつかりながら店に入ってくるなり「ごめんけど、酔っ払っとるけん。」と私と店長に言ったのです。

私は、このとき、男性が飲酒運転をしてきたことを確信しました。

それと同時に、同級生が飲酒運転の車に跳ねられ、亡くなったことを知らされた高校時代のことを思い出しました。

その事故は、飲食店で飲酒して帰る途中に起きた事故でしたので、私は

誰かが飲酒運転事故の犠牲になる前に、これ以上この男性に飲酒運転をさせてはいけない

と思い、警察に通報することを決心したのです。

男性は、メニューにはないうどんを注文したり、食券が買えないくらい酔っ払っていました。さらにこの男性は、ビールを注文してきましたが、これ以上酔っ払って危険な状態で店を出ては困るので、「お酒は置いていません。」と断りました。

そして、男性が食事をしている際に、店長に警察に通報することを相談して、駐車場で車のナンバーや男性の特徴などを確認して通報したのです。

男性が食事を終え、店を出て行くときに、声を掛けようか迷っていると、男性が駐車場から出た直後に、赤色灯をつけて男性の車を追いかけて行くパトカーが見えたので、安心しました。

今回、通報することに不安や迷いはありませんでした。それは「この男性の飲酒運転をやめさせたい。」という思いが強かったからだと思います。警察が通報した人の名前を相手に教えるようなことはないので、

飲酒運転を見かけた人は、勇気を出して安心して通報してもらいたい。

と思います。

また、私は飲食店の従業員ですが、

お客さんが1人減っても、飲酒運転をやめさせることのほうが大事

ですので、他の飲食店の人たちにも積極的に通報してもらいたいと思います。